



平成 24 年 10 月 22 日

日本防災士会

広島県支部南東部地区活動報告 第 4 4 号

[広島県南東部地区会議]

日時：10 月 14 日 13 時～16 時

場所：三原市サン・シープラザ 3 階会議室

主催：日本防災士会広島県支部南東部地区

オブザーバー：三原市危機管理室村上課長

広島県三原警察署和田課長他

日本防災士会広島県支部備北地区

参加者：合計 26 名

防災士会南東部地区 20 人、三原市危機管理室 1 人、広島県三原警察署 3 人、
備北地区防災士 2 人

[会議内容]

- ・今回は新規参加会員 8 人、オブザーバー 6 人が加わり、合計 26 人の出席者で活気ある雰囲気で開催され、地区幹事岩崎防災士の司会で会議運営が進められた。
- ・役員（副支部長、地区幹事、副幹事（情報）、会計）の自己紹介が行われ、南東部地区の参加会員の自己紹介が行われた。それぞれの地域で防災活動の他、町内会役員、福祉活動、ボランティア活動をされている会員が多く力強さを感じた。
- ・オブザーバーの紹介を通して防災士会の活動への関心と期待が感じられた。

[議題]

1. 支部、地区報告

(1) 県支部、地区活動報告（岩崎防災士）

県支部報告 5 件、地区活動報告 6 件が報告され、特に広島県と福山市共同主催の防災の日（9 月 1 日）の福山市総合訓練には南東部地区の防災士が計画段階から参加し、担当作業を実施した。参加者から好評を得たと報告。

(2) 会員状況（細川防災士）

南東部地区会員 54 人（福山 24 人、三原（呉、江田島 5 人含む）14 人、尾道 4 人、府中 3 人、世羅町 6 人、神石高原 3 人）。会員変更あれば市町担当者に連絡する事。

2. 24 年活動報告

(1) 福山地区（岩崎防災士）

- ・福山大学では H25 年から防災リーダー養成講座の開設計画あり、同大学学生と一部一般市民を対象として計画されている。県支部箱上恵吾支部長が養成講座に参画することになった。
- ・広島県と福山市主催の総合防災訓練（上述）が実施、防災士会南東部地区は 12 人が支援参加し第 2 会場で防災展示と講演を受け持った。日本防災士会会報 32 号トップページに「広島県支部福山市総合防災訓練の支援」と題して掲載。

(2) 尾道地区（細川防災士）

- ・尾道市因島、向島では 3 年前から地域の防災活動が活発になり、講話、展示、訓練などが地域ごとに実施され南東部地区防災士の協力支援の実績が評価され期待されている。

(3) 三原地区（桑木防災士）

- ・三原市の防災活動の実情が説明され、三原市防災ネットワークの組織、活動実態内容、H22 年・23 年の活動回数・参加人員変化増、自主防災組織は 94 組織、組織率 43% であり、市街地の組織化が課題。
- ・防災活動は 3 内容に分類実施されている；①市内各地区の防災訓練の支援 ②市内各地区からの要請による防災講座の支援 ③防災活動リーダーとしての研鑽及び学習「東日本大震災の被害地を取材して」（中尾卓英氏）、「被災地障害者の救助活動を通して見えたもの」（NPO 法人八幡隆司氏）、「大型水理模型による瀬戸内海に発生する津波」（産総研山崎宗広氏）など。

(4) 世羅地区（岡田防災士）

- ・中山間地区で防災活動に住民の関心度が高く、一昨年 7 月土砂災害を被災して一段と高まっている。防災士は社協職員が町全体の半数で期待が大きく、町の防災活動の企画、計画、実施業務に係わっている。

3. 情報・意見交換

(1) 三原市本町連合町内会自主防災組織活性化プロジェクトの支援報告

（吹矢防災士）

- ・三原市連合町内会の防災活動活性化プロジェクトが県危機管理監消防防災課にて 5 月設立され、構成チームに吹矢防災士、岩崎防災士、佐藤防災士が参画して指導支援している。今回 6 回までの活動内容が説明報告された。狙いはこのモデル組織の「活動の活性化」と「防災リーダーとなる人材の育成」であり、1 年計画でまとめ、2、3 年フォローして行く。

- ・出席防災士から今後は地元で支援できる内容は地元で実施したいとの意見があった。
- (2) 救急員養成講座実施計画の紹介 (岡田防災士)
 - ・救急法基礎講習と救急員養成講習を受けて検定に合格して、赤十字救急法救急員認定書が取得できる。南東部地区の会員の中にはその指導が出来る会員が3人いるので地区内の受講、認定書取得希望者の便宜を図り、地区内で計画実施したいと説明された。
- (3) 「南海トラフ巨大地震の理解と備え！」 講演 (桑木防災士)
 - ・内閣府公表の資料から分かる南海トラフ巨大地震の内容、特に瀬戸内海に位置する広島県への地震、津波の現象と予測被害を示し、従来の想定被害(東南海+南海地震)との比較から、一層高い防災力が必要であることを防災士として認識し、防災・減災への注意事項や要点を啓発活動に活かすよう説明した。
- (4) 「東日本大震災の教訓を活かすー 実施したこと / 提案したいこと」 (自由討議)
 - ・(木村防災士) : 311大震災後被災地に行った。避難所のなかで何か限界を感じた。避難所の運営が外部の専門家に任されており問題があると感じた。やはり被災地域、地元のリーダーが必要であり、今後は地域で防災リーダーの養成が必要である。
 - ・(先小山防災士) : 3年前から地域での防災訓練に取り組んできたが、活動を通してようやく、参加住民の理解が高まってきた。住民の目的意識が高まり、危険個所の認識、身を守り安全避難への取り組みが積極的になってきた。今後も地域防災レベルの向上に取り組んで行く。
 - ・(竹原防災士) : 町内会の自主防災組織の立ち上げから取り組んできたが毎年防災訓練を実施し、避難訓練、災害体験事例発表など、今年は第二中学校(450人)と地域との合同の避難訓練を計画している。また広域化訓練も検討している。
 - ・(平賀防災士) : 町内防災会の専任として期待がかかっており、消防団分団長としての長年の経験を活かして地域の安全を守る活動に取り組んで行く。
 - ・(地森防災士) : 災害時には状況をいち早く連絡することが被災者を助けることになる。リーダーは早く状況を把握して関係先に連絡する事が必要。
 - ・(村上防災士) : 自主防災組織は町内会組織内と別組織とではどちらがよいのか?の問い掛けがあった。この件はそれぞれ長短あるが要は連絡、協力、組織規模、効率化がポイントであり、町内会の状況によりベターな方法を決めることになる。
 - ・(オブザーバー) : 南東部地区防災士の取り組みを理解すると共に、相互の情報連絡、協力関係を築きたいとの要望があった。

[所感]

参加防災士の発言からそれぞれ立場、経歴は異なるが地域住民を災害から守る強い思いがお互いに伝わった。同じ目標をもつ防災士が連携し、協力して南東部地区、県全域の防災力の向上、安全な地域づくりに着実に取り組むことを確信した。



参加者の皆さん



役員と福山の皆さん



尾道、三原、呉、世羅の皆さん



オブザーバーの皆さん

以上